

史上初の単独開催！島人の憤りを日本全土に発信

長瀬

沖縄から

カウントダウンライブ

神戸に続き2回目
シンガー・ソングライター長瀬剛(53)が今年の大みそかに沖縄県宜野湾市の沖縄コンベンションセンターで、アーティスト単独として初のカウントダウンライブを開催する。ところが3日、分かった。この日、新曲「俺たちのニライカナイ」(11日発売)のプロモーションのため、沖縄に滞在中の長瀬が本紙のインタビューの中で明かした。長瀬によるカウントダウンライブは昨年の神戸ワールド記

念ホルに続き2年連続2回目。自身初の沖縄ソングとなる高曲や、ライブへの思いを語っていった。

思いを込め集大成
「僕ら内地に住む人間は大事なものを断ち切って、あえて無関心、無感動に陥っている。島人間がみんぱにしわを寄せて何かを訴えていても、それを無視することが一番助すかしいと痛切に感じているんだ」

2001年、長瀬は全国ツアーで17年ぶりに沖縄を訪れた。長い期間この地を訪れていなかったらめたさや不安をよそに、道を歩く人に「おかしなさい」と言われたという。その温かさが長瀬の感性の中にある原風景そのものであり、「いつか沖縄のことを歌にしたい」という思いの始まりだった。

「基地の問題にしてもそうだけど、俺たちのニライカナイを作ってみて、沖縄の人たちは悔しさが憤りとか、無念

に近ような感情を若者男女が持っている気がした。そこに僕自身が、参戦させてもらおうと。歌で筆を突き上げて日本全土に発信したいという思いがあった」

「いわゆる世界平和を訴えかける楽曲ではない。「ニライカナイ」とは沖縄や奄美で信じられて

「発信源がどこかっていうところが今回重要。本土からでも(ファンが)来るだろうし、その努力が熱いぜわり、何かを覚えていくと思う。(アーティスト単独のカウントダウン)前は僕にとっけ誇りの島。そこで島人と一緒に正月を迎えられることを、協力してくれる島の人や現場の人たちに感謝したい」

そして、長瀬はさらに先の理想郷を見据えている。だが、その考えが島民全体から支

持されるかどうかは未知の世界。それでも長瀬は自ら先頭に立ち、音楽家としてアクションを起こすつもりだ。

「例えば本土から10万人を動員してイベントをやろうとするとき、島の人たちが協力してくれるかと言ったら、今のところは無理。でも今を理解した上で、今の若者たちのリーダーたちが協力してくれば、僕は10万人も20万人も夢じゃないと思う。今はまだその入り口にも到達してないし、少し時間はかかるよね。でもやらなきゃいけないという使命感がある」

カウントダウンライブはその序章にすぎない。長瀬が描く大きなプロジェクトはまだ始まったばかりだ。

(江川悠)

念ホルに続き2年連続2

1で17年ぶりに沖縄を訪れた。

に近ような感情を若者男女が

「発信源がどこかっていうこ

20万人と新年祝つ

持されるかどうかは未知の世界。

(江川悠)

急ぎよファン50人参加

公開レコーディング
この日、長瀬は宜野湾市のSTUDIO Gで「俺たちのニライカナイ」の新録音バージョンの公開レコーディングを行っ

た写真。もともとこのバージョンは着うた(着付け)向けに長瀬が単独でレコーディングをする予定だったが、2日に行われた地元ラジオ局の公開生放送の中で「どうせなら、島人と一緒に歌いたい」

と思いついた長瀬は、会場に詰めかけたファンの中からじゃんけんして勝ち残った約50人をスタジオに招待。急ぎよ、サビ部分在大合唱することになった。

この新録音バージョンは、4日から1週間、期間限定で長瀬の携帯電話向けオフィシャルサイトでもうたと着うたフルが有料配信される。



沖縄でカウントダウンライブを開催することを発表した長瀬剛＝沖縄県宜野湾市で